

発行 2022 年 11 月 1 日

11 月 第 249 号

奈良・人と自然の会

ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》



<コスモスの向こうで花壇整備>



Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

ならやまプロジェクト	1	字遊字感（釣りの思い出）	9
Monthly Repo ならやま	2	季節のエッセイ	10
里山の今（パト・果樹）	3	やさしい昆虫講座	11
里山の今（虫だより・花だより）	4	新ならやま投句箱	12
朝日親と子の自然環境教室レポ	5	行事案内	13
佐保台小学校稲刈り・レポ	6	きのこだより・奈良学クイズ	14
平城宮跡草刈り・レポ	7	幹事会報告・編集後記	15
自家製燻製にチャレンジ	8		

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
あなたも私も・力合わせて

当会は先月 24 日に創立 21 年を迎えた。ならやままでの活動も 16 年におよぶ。会員の平均在籍年数は 8.5 年、平均年齢は 74.5 歳である。確実に高齢化する一方、すでにほぼ出来上がったユートピアに入会した人たちが半数を占める。改めて、これまでの先輩たちの築きあげたものの大きさに敬意を表するとともに、この大きな成果を次世代に引き継ぐためには、今一度、現状を踏まえて真摯に活動の目的・あり方について、みんなで考え、議論し、力を合わせなければならないと思う。

10 月は盛りだくさんの行事があり、たくさんのお客さまも迎えて忙しい月だった。稲刈りも終え、実りの秋の真ただ中、ならやまは最高の季節だ。竹林整備など渦中に入る作業はあるものの、11 月はイベントもなく、ゆったりと流れるならやまの時間を味わいたいものだ。

そんな中で、ぼちぼちとこれからのならやまの姿について、みんなが話し合える場が持てれば・・・。

『ならやまに 金と力は ないけれど 10000 歳に 怖いものなし』・・・投句箱補選より

11 月の活動特記事項

11 月 10 日 (木)：協働活動 (アダプトプログラム・佐保自然の森竹林整備)

11 月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	楢木用コナラの伐倒、里山林内 30 区画の整備、薪割り、下草刈り ユート：アカマツの森でのマツの間伐、草刈りなど
エコファーム	脱穀後の水田・わら・竹の整備 葉物野菜・大根の施肥、タマネギ畑整備・植え付け、枝豆類種まき、里芋掘り、 冬野菜収穫・野菜跡地整理 堆肥場整備、ハウス(南)修理
景観	整備：佐保自然の森竹林整備、養蜂巣箱および周辺の整備 ビオ：水路・木道整備、水生生物調査 花：山野草園、ジャーマンアイリスの草引き
パトロール	1～3 コースパトロール、観察路丸太階段等補修整備 樹木銘板作り 会員向けの秋の観察会
果樹	キウイ棚製作、ブルーベリー園移設、イチジクネット撤去、 実りの森除草

活動日：毎週木曜日 9:00～15:00

前日の 19 時現在の気象庁予報 (NHKTV 奈良 19 時前放送) の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率 60% 以上の場合は翌日、翌日も同予報であれば中止



Monthly Repo. ならやま

富井 忠雄

9月22日(木) 雨・晴 57名+近大生2名

雨模様の為、参加者が少なかった。里山Gは伐採木を薪用に玉切、No.18区画の植樹区域の下草刈り、里山林内整備を行う。エコGは水田と畑の除草、玉葱、大根の種播き、ナスなどの収穫。景観Gは真竹林の整備と彩の森の草刈り。花班はアジサイ園周辺の草引き。ビオ班は近大生と共に西池とスイレン池での田貝の試験的育種に関連する作業、ビオエリアの掃除、ザニガニ駆除など。パトロールGは2コースのパトロール、A地区の倒木の処理、観察路の草刈り。

9月29日(木) 曇り 69名

10月から味噌汁提供が始まる。稲刈りやイベントが続くので、忙しい10月になりそうだ。

里山Gは赤松伐採、No.18区画の植樹区域の下草刈り、藤棚整備。エコGは稲架掛用竹の準備、畑周辺の草刈り、ナスなどの収穫を行う。景観Gは佐保自然の森の草刈り。花班はアジサイ園周辺の草引き。ビオ班は西池水生生物調査と整備。パトロールGは1コースのパトロール、A地区竹の伐採。果樹Gは栗の収穫、実りの森の除草など。

10月6日(木) 晴れ、80名

久しぶりに秋晴となり、80名の参加があった。景観Gを中心に15名が参加して平城宮跡の草刈りを行った。里山Gは伐採木のマーキングを含むイベント準備、No.18区画の里山林内



整備、薪割りなど。エコG稲架掛用の竹の準備、白菜などの種まきと防虫ネット張り、草刈り、ナスなどの収穫。景観Gおよびビオ班は平城宮跡の草刈り。花班はアジサイ園周辺の草引き、ヒガンバナ撤去など。パトロールGは2コースのパトロール、四季の丘の草刈り、スズメバチ駆除。果樹Gは栗とミョウガの収穫、キウイ棚組み立て、除草など。

**10月13日(木) 晴れ 68名+実習生1名
+佐保台小28名**

数名でカブト虫の幼虫100余匹を捕獲し来年度に向けて飼育を開始。里山Gは薪棚周辺整備、No.18区画の里山林整備、草刈り。エコGは佐保台小児童の稲刈り体験対応とビーマンなどの収穫、さつま芋の試し掘り。景観Gは四季の丘、第3駐車場の草刈りと整備。花班は自転車道沿い花壇千日紅の片づけ。ビオ班はビオエリアの草の撤去、水路の泥上げ。パトロールGは3コースのパトロール、観察路周辺の草刈り(景観G応援)。果樹Gは柿などの収穫、実りの森の除草など。

10月16日(日)**朝日親と子の自然教室関係者65名+会員25名**

朝日親と子の自然環境教室イベント(午前中は稲刈り体験、午後は里山体験)を実施。

10月20日(木) 晴れ 76名+1名(コメリ)

コメリ緑育成財団の加藤様が来訪され活動に参加。里山Gは遊具の撤去、No.18区画の里山林整備。エコGはイベントで刈残った稲の刈り取りなど。景観GはBC周辺、彩の森の草刈り。花班は自転車道沿い花壇の草引き。ビオ班は西池の水生生物調査、草刈り。ユートピアクラブは松の剪定枝などの整備。パトロールGは自然林内観察路の丸太階段補修、1コースのパトロールなど。果樹Gは実りの森の整備。

午後にならやま委員会開催。

パトロールグループ



果樹グループ

◆活動と竹との出会い

飯島 八重子

令和4年10月15日で私はならやま入会2年目になります。パトロールに所属してからも間もなく2年経過します。令和2年11月5日のメモを見ると「本日午前中は協働活動の日で佐保自然の森の竹林整備に参加」とあります。その日が初めての‘竹’との関わりの日で、竹林手入れの必要さを教えてくれた竹との出会いです。2回目の関わりは11月12日、この日は現在「四季の丘」とネーミングされている展望広場の整備日で、展望広場を作るために伸びた竹や曲がった竹の根っこを切り取る作業の日で、私は初めて竹専用のノコギリを使ってのノコギリひき。キッコキッコと何度やっても上手く切れず「鋸は手前に引く」ことさえ解らず、汗は出る！ 手は痛い！ 竹はなかなか切れない！「ちっともお役にも立たない私」と、作業中もちょっと自信を無くしかけていましたが、何とか皆さまの教えを受けながらコツコツと……。私も土から顔を出した竹の子から細い青竹に成長中です。

竹の成長を四季折々見て思ったこと。とにかく竹は凄い！ 食用のタケノコから竹細工、利点もあれば、根っこははびこり竹林は地上を覆いつくす等の欠点もある。私には竹細工は作れないけどこれなら出来ると思ったのは竹の皮、これは簡単綺麗に拭くだけで使えそう、これなら来年は鯖寿司用に使おうかなと思ったりして……。これからも竹さん宜しく！ お手柔らかにね。



※菊川さん提供。竹皮のおにぎり包みと草履

◆自然との繋がり

久保田 康之

自然とのふれあいに魅力を感じて入会させていただき一年弱になります。

活動内容は季節の移ろいとともに変化していきます。

春は梅の枝打ちから。「桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿」のことわざどおり小枝の剪定を行いました。次にキーウィを植える土地の準備、水捌け改良の排水路作り、腐葉土を作るための場所作り。

夏は雑草対策。日照りの暑さと繁殖力の強い雑草に負けそうになりながら、毎日毎日草刈りです。お陰で多少は草刈機の操作も慣れ、作業の役に立つことができるようになったのではと自己満足しています。

また、他のグループ同様、鹿対策は悩ましいところです。彼らも自然に生きる物、知恵比べです。今まで生きてきた人生でこんなに自然とふれあえる経験がなかったので、一つ一つの作業が新鮮で楽しみです。

これからも先輩諸氏の作業を見ながら自然に学び大和の自然を満喫し、楽しく活動して行ければと思います。



虫だより



花だより

◆今年の昆虫

菊川 年明

昆虫のシーズンもほぼ終わりましたので、今年のならやまの昆虫の消長を振り返りますと次のような状況でした。

春、真っ先に飛び出してくるのはテングチョウですが、今年はずっとの年よりたくさんい



(写真はテングチョウ)

ました。夏、ヒグラシの声が全く聞こえませんでした。姿はときどき見かけていたので声が全く聞こえないのは不思議です。

ミンミンゼミは例年ですと夏中に数回声が聞こえる程度でしたが、今年はずっとどこかで声が聞こえていました。



(写真はコムスジ)

コムスジ(チョウ)はいつもの年よりたくさんいて、始終目につきました。ひらひらとゆっくり飛びます。

8月の下旬になると、いつもの年ならエンマコオロギが良い声で鳴き始め、9月にはそこかしこで声が聞こえるのですが、今年はずっと鳴き声が聞こえませんでした。これも不思議です。

シオカラトンボはどういうわけか、例年よりたくさんいました。畑地や里山林でいつも視界の中にシオカラトンボの姿があるほどでした。

オオゴキブリは家の台所まわりにいるクロゴキブリに似ているので気味悪がられるかわいそうな昆虫です。オオゴキブリは自然環境が良いところにしかいませんので、この虫がいるのは自然環境が良い証拠なのです。食餌は朽木の木質部です。今年はずっと山道でよく見かけました。



(写真はオオゴキブリ)

◆むかごとヤマノイモ

-「むかご(零余子)」ってなあに?-

坪井 都子

実りの秋です。

ならやまでも、稲刈り・栗拾い・芋ほり等の楽しいイベントが執り行われています。

その中で可愛いむかごをつけたヤマノイモを見かけることができます。まるで超小型のジャガイモです。少し塩を入れた零余子飯(むかごめし)は素朴で美味しいです。

「むかご(零余子、珠芽)」は、脇芽が養分を蓄え肥大化した部分のことで、植物の栄養繁殖器官の一つです。茎が肥大化して形成される肉芽はヤマノイモ科などに見られます。オニユリなどのように葉が肉質となることにより形成される鱗芽とは形態的に大きく異なります。肉芽は芋の形ですが、鱗芽は球根の形です。

食材として単に「むかご」と呼ぶ場合、一般には山芋(自然薯)、ナガイモなど山芋類のむかごを指しています。



上の写真(2022.10.5 平城山にて)の木に纏ってハート型に見えるのはヤマノイモの「雌花」で、中に丸くて薄い種子が入っています。右側の蔓にぶら下がっているのが「むかご」です。ヤマノイモの品種は、その殆どが脇芽が変化した球芽である「むかご」が地面に落ちて発芽して増えていきますが、翌年からは地中に栄養を蓄えた種芋から芽を出します。

晩秋の生活の季語でもある「むかご」をまだまだ楽しみ、味わいたいと思います。

朝日親と子の自然環境教室レポ

戸田 博子

10月16日、今年で5回目になる朝日親と子の自然環境教室が開かれました。直前の天気予報に反して、快晴に近い日になりました。

参加者は小学生・子ども28人、大人27人、朝日のスタッフ10人、当会のスタッフ25人、総勢90人で久しぶりに大賑わいでした。



午前中は黒米稲刈り・稲架がけで、東西から刈り進み、顔が会ったら終了です。予定より早く、11時半に終わりました。

さあ、お楽しみのお昼ご飯、皆さんお目当ての豚汁が出来て休憩になりました。

昼食後、鈴木さんに工事を披露してもらうことにしました。ヘリコプター・風車・竹笛など



豚汁作り

は、みんな興味深々で、目をキラキラさせて聞いています。竹笛は吹ける子あり、音が出ない子あり、大人まで本気で練習しました。

午後は予定より早く開始しました。東側と西側に別れて、里山体験へ出発です。班ごとに説明者とタイム・キーパーが付き、散策路の希少植物や間伐した木のお話を聞きながら、赤松林に移動。皆伐実験したことや実生林になったことの説明を熱心に聞いていました。

そこから遊びの森に少し登り、後半の目玉の小木伐採です。班単位で山本リーダーより説明を受けました。ノコギリや剪定鋏を使ったことがある子はほとんどなく、1本の木を切り倒す



のに時間がかかりました。子ども1人に大人2人がかりの場面もあれば、1人で3本も切った

子どももあったようです。

次の班と交代してアスレチックでは、のびのびと楽しみました。予想



に反して木登りより、ハンモックが大人気でした。親御さんも、チョットやりたそうだったかな？

その後、皆伐地区に移動し、伐採の目的・里山保全の作業・樹木伐採の利用の話をしきました。今回の大きなテーマでしたが、後日の子



エイ！硬いな

もの感想では、すこし難しかったかもしれません。

伐採木の利用として、薪作りを見学してもらい、機械式薪割り機を子どもに操作してもらいました。

BCに全員戻り、阿部さんによる里山のお話を

聞きました。林内を観察した後だったので、参加者は里山活動をよく理解できたと思います。

各スポットでの説明が、オーバーしないかと心配しましたが、予定通り終了できました。

里山の事を少しでも理解し、楽しい時間が沢山あり、朝日の参加者は笑顔で帰られました。お手伝いの当会のスタッフの方々に、朝日親と子の自然環境教室より、お礼の言葉をいただきました。各班のお世話役、稲刈りの補助、そしておいしい豚汁作りに感謝しています。

千載会長の「また、来年来てね！」に、参加の子どもは大きく「ハ～イ！」

楽しい秋の一日でした。

佐保台小学校稲刈り・レポ

梨本 哲

10月13日(木)秋晴れ、佐保台小学5年生の稲刈り体験の日。始まる前に会員で水田刈り取り作業範囲のテープ張り等の準備を行った。

10時頃に引率先生3名と児童25名(男子18名、女子7名)が水田前に到着した。

ことし6月9日、同児童による田植えから127日目、今年は天候にも恵まれ生育も良好だ。

開始にあたり千載会長の挨拶があった。続いて生徒代表から「稲刈りの用意をしてくれてありがとう。よろしくお願いします」と元気な声で挨拶があった。

次に鈴木顧問から稲刈りの注意事項説明が図を用いてされた。

- ① 昔ながらの稲刈り体験をしてもらう。
- ② 稲の地上20cm位を手で持ち、鋸カマで地面近くを刈る。会員が手本を示し、児童代表がこれを実演した。
- ③ 刈り取った稲は6株ずつまとめて置いて紐(ひも)でくくる。

次に先生から注意事項説明として

- ① カマでのけがに注意する。
- ② 転倒に注意。
- ③ 先輩に対しては敬語、丁寧語を使うこと。

10時20分頃、北側水田「はぐくみ」に13名、南側水田「未来っ子」に12名の児童たちに並んでもらい一人3列テープ張り位置まで刈り取り作業を開始した。



ぬかるみある田んぼに長靴がはまり込み、抜けなくなった生徒もいた。改善方策の検討が必要と思われる。

次は6株ずつの稲を紐で束ねる作業を行った。日常で紐かけをすることが無いのか出来ない生徒が多かった。手本を見せ真似てもらった。正しいやり方は難しい。

束ねた稲穂を二つに分け広げ、竹で組んだ棒にかける。次の稲穂も二つに分け広げ先の稲穂と角度を変えてかける。稲穂に十分に太陽の光と熱を当て乾燥させる。これを「稲架掛け(はさがけ)」という。よく乾いた米はあまみがますといわれている。

11時30分頃作業完了し全員集合した。まず先生から「学習から学ぶ」、「経験から学ぶ」なかで今日は経験から学んでもらった。

次に生徒3名から感想として次の発表があった。

- ① 最初しんどいと思ったが楽しかった。
- ② カマにあたると痛かった。
- ③ 怖いなど思った。

最後に鈴木顧問から今年で14回目、第1回目参加の水上さんはカンボジアの小学校で先生をやられている。11月の給食で刈り取った黒米(品種さよむらさき[もち米])を食べてもらいますと話があった。

天日干しされた稲は、10月27日に児童が参加して脱穀の作業を予定しています。今年の水稲栽培の体験学習は終了します。

スタッフの皆さん、ご苦労様でした。



平城宮跡草刈りレポ

田代 一行

今回も春の作業に続いて、平城宮跡東側、東院庭園の南の空地の草刈りです。天候もここ数日で気温が急降下、朝方は肌寒く感じましたが、作業にはちょうど良い気温となりました。当日は作業担当者16名が通常時間より1時間早く集合し、AM8:00から太田リーダーにより作業手順を説明後、自動式草刈り機、草刈機、防具、燃料、鍬、等の必要機材、全てを軽トラックに積み、作業担当者はマイカーに分乗し、8:30にベースキャンプを出発、現地には9:00前に到着しました。積み込んだ機材等を下ろし、再度太田リーダーより現地の作業エリアを担当者に説明した後、集合写真を撮り、作業開始となりました。



(作業前の集合写真)

その後、それぞれ、16名が担当エリアへ一斉に向かい、作業開始。ぼうぼうの田地は見るうちに庭のようにと変貌していきました。

気温も作業にはちょうど、良かったようで、作業は順調に進み、昼前には、ほぼ完了。その後昼食を取り、残り作業を済ませ終了。機材等を全て軽自動車に積み込み、ベースキャンプに向け出発。ベースキャンプ到着後、機材の清掃を済ませ、倉庫に格納、本日の作業を終了しました。本日は早い時間から集合して、作業も効率良く進めて頂き、予定より早く終了できました。ありがとうございました。来年もあるかも？その時はよろしくお願ひします。

(リーダーより)



(作業前・東院南側)

さあ、この場所をきれいにします。



(作業前・平城宮跡東側)

ゴールは遠いです。



(作業風景)

自走式草刈り機も頑張っています。



(作業風景)

もうひと頑張り。お昼ご飯が楽しみ。



(作業後風景)

きれいになりました。ご苦勞様でした。

自家製燻製にチャレンジ



柴田 秀男

約20年前に夕刊のコラム欄に『燻製つくりは男のロマン』的な記事が掲載されていました。確か、ササミとチーズの燻製の作り方が載っていたように思います。それまで全く興味はありませんでしたが、ネットで調べるうちにやってみようと思い、ホームセンターで燻製器(スモーカー)を買いました。スモーカーや材料、味付け、乾燥、チップ、燻製時間、完成等私のやっている方法を項目ごとに少し紹介してみたいと思います。

① スモーカー(ブリキの円筒形)

簡単な方法としてカセットコンロにフライパンをのせアルミホイール、チップ、網、材料を置き蓋をして燻すというやり方があります。私は最初から直径25cm、高さ35cm、中に網が二段置けるブリキ製の円筒形のスモーカーから始めました(2000円くらいでした。)

スモーカーを台所のガスコンロの上に置き、下のブリキ板にサクラのチップをのせ中火で熱していきます。網が二段で下段に鶏のムネニク上段にササミをのせて燻製スタート。台所が煙だらけになり、換気扇をフルに回していました。約15分後にそれぞれ裏返し、茶色のつき具合で上段、下段を入れ替えます。

② カシワ製のスモーカー

42cm×35cm×高さ72cm重さ16キロ、鉄板に黒く塗装。昔のヤマハのスピーカーというイメージです。(18000円くらいでした)

当然、家の中ではできず戸外でやっています。二個のブロックにスモーカーを載せ、熱源は電熱器を使っています。(昔からあるニクロム線を渦巻状にしたもの。)電気なので安全で燻製することができます。

③ 材料

燻製作りの本には色々紹介されていますが、やってみたのは、ゆで卵・サーモンの腹身・ミックスマツツ・鳥ムネニク・ササミ・チーズ(プロセスチーズ)下準備のし易さや安定してスモークできるものとして、今は主にササミとチーズの2種類をしています。

④ 味付け

チーズは乾燥のみなので、ササミについて紹介します。味が浸みやすいように2本のフォークで表裏、数十か所穴をあけます。ソミュール液(ミリン・酒・醤油・砂糖・ショウガ・ニンニク・鷹の爪)を作り、ジップロックにササミと液を入れ冷蔵庫で三日間寝かせます。

⑤ 乾燥

液やショウガ・ニンニクを水で洗い流し、キッチンペーパーで水分を取ります。皿に並べて時々上下をひっくり返しながらか、冷蔵庫で三日間乾燥させます。チーズ(雪印の350gプロセスチーズ)は7mm前後にカットしササミ同様冷蔵庫で乾燥させます。水分がある程度抜けていないとスモーク時にべとつき網にくっついて上手くいきません。

⑥ チップ

サクラ・ヒッコリー・リンゴ・クルミ等があり種類によって香りが全く違うと本には書いてありますが、正直何種類か試しましたが、私の鼻が悪いせいか違いがほとんどわかりませんでした。今は全てサクラのチップを使っています。

⑦ 燻製時間

冷燻・温燻・熱燻とあり温度や時間の目安がありますが、時計や温度計を使っているのが面倒なので、時々扉を開けて色のつき具合で判断しています。

最後に

準備から完成まで1週間近くかかりますが、お酒のつまみにとても良いように思います。きざですが、ワインに合うように思います。これからも時々続けていきたいと思っています。

釣りの思い出



福田 美伸

私は開高健の本で「釣り」と言うことに大変感化されました。静岡に着任した時、近くには千本松原があり白キス釣りに夢中になりました。千本松原の海はすぐに深さが8m近くになり、キスを釣るには浜から80~90m以上投げないと釣れません。100g以上のおもりと天秤をつけて浜から飛ばす訳ですが、初めのうちはリールを戻すことを忘れ、おもりごと100m以上をよく飛ばしました。80~90m先はなぜか浅くなっているためでした。90m飛ばした時には、25cm以上のキスがよく釣れました。

東京へ転勤した時、10月に15人ぐらいで金曜日会社が終わってから銚子までハゼ釣りに。翌朝4時に起き、暗いうちに3隻の釣船に分かれ河口へ。その途中たくさんのボラが船の音に驚いたのだろうか、ピョンピョンと沢山飛び跳ね、なぜか私の足の太ももに50cmものボラが直撃、大変痛かった覚えがあります。釣りが終わってからその大きなボラを洗いにして酒盛り。その時ハゼは大量で、50匹ほど釣れました。

東京では、相模湾へ船でキスなど釣りに。私の針に小さなキスがかかりましたが、同時にリールが急に重くなって、リールが巻けなくなりました。みんなビックリ！何と驚くことに50cmを超えるヒラメがキスに食いついた訳です。ラッキー！船頭いわく、このようなことは時々あるとのことでした。帰りは沢山の魚を料理屋に持ち込み、大盛り上がりでした。

大阪に転勤しても、釣り好きな取引先の社長に太刀魚、鯛、チヌ、イカなどの釣りに連れ行ってもらいました。一番の傑作は、5人で8月福井の常神半島へイカ釣りに。夕食後船でイカが釣れる場所へ、暗くなってからライト点灯。釣り始めて間もなく、私の前に大きなワタリガニが泳いでくるではありませんか。当然、タモ

で捕ることが出来ました。イカは一人15~20匹釣れ、夜の11時過ぎルンルンで民宿へ。釣ってきたイカの刺身で酒盛り。「大阪では1杯1000円はするのではないか」と話は盛り上がりました。そして、翌朝、民宿のお婆さんが「あなたたちスルメイカの刺身で酒盛りしたのですか？私の孫がスルメイカを刺身でよく食べ、アニサキスと言う寄生虫で、2年間も入院しました」と言うではありませんか。「アニサキスはイカの内側の肉の中に入り込みよく分からないため、刺身で食べると人の胃の内に入り込み大変なことになります」と、大変ビックリ！しかし、私がすくったワタリガニは5人で十分に食べることが出来ました。帰りに漁港の市場へ寄ってみたところ、スルメイカ1杯50円で売っているではないですか。余りにもショックでした。釣ったイカは家に持ち帰り、冷凍後よく煮てから食べ、また塩辛にもして食べましたが、異常なでした。

この会では、5年前に亡くなった釣り名人池田敬二郎氏に、釣りに3回連れて行ってもらいました。三重にはチヌとアオリイカなどで2回、和歌山には太刀魚で1回。三重と和歌山まで行って、3回とも2人とも坊主。有り得ないことである。なぜ釣れなかったのだろうか？

いずれあの世で、反省会を開くつもりである。

開高健の本、沢山読みました。文章は大変読み易くジャンルが広くて、特に釣り紀行文は、本当の釣り師であると尊敬しました。「オーパ」「オーパ、オーパ」「フィッシュ・オン」などの本を夢中で読みました。彼は「オーパ」の中で中国の古い諺から引用した『1日幸せになりたかったら酒を飲みなさい。1ヶ月幸せになりたかったら本を読みなさい。1年幸せになりたかったら結婚しなさい。永遠に幸せになりたかったら釣りを覚えなさい。』と載せております。中国人も諺で最高に素晴らしいと。釣れる瞬間の「あのググー」！たまりません。

図:開高健「私の釣魚大全」

季節のエッセイ

「公方様の絵」他、鳥どりの話

小田 久美子

お殿様で絵を描く方は多く、皆さん玄人はだしの絵を描かれたのが多く残っています。

この絵は三代将軍徳川家光公です。れっきとした大絵師,加納探幽に指導を受けたと伝わっています。一見するとお世辞にもお上手とは思えませんが、明治期の『扶桑画人伝』に、岩佐又兵衛・蘇我蕭白(そがしょうはく)らの一流絵師と名を連ねて、徳川家綱などと一緒に奇画(素晴らしい絵)として、徳川家光の名も入っています。



ふくろう



竹に雀図

皆様のご感想は如何ですか？

いわゆる、ヘタウマというのでしょうか、絵だけ見せられるとフ〜とスルーしてしまいそうです。立派な装幀がしてあり、家光作と聞いてしまうとちゃんとした絵として見るのですから、人間の価値観も大したことはありませんね。

テレビの鑑定団番組に家光の絵だと出品され、専門の先生が番組に請われて出演し、家光作と鑑定し日の目を見た絵だそうです。

「ぶらぶら美術館」という番組があり、この絵はそこから転載させていただきました。この日の展覧会は、西洋絵画と日本の絵画の動物の描き方をテーマとしていて、西洋はキリスト教の世界観から、動物は人間に退治されるべき物で、獲物としての対象として描かれ、対して日本は昔から森羅万象生きとし生けるものの命は、平等という考えが根幹にあり、「鳥獸戯画」のように擬人化してみたり、禅宗では墨で略した絵が禅僧によって描かれ、上手く描かなくても良い文化もありました。そういう世界観から公方様の絵も評価されたのではないかと思います。

仏教にも影響され万物が平等。釈迦涅槃図には、あらゆる生き物が亡くなった釈迦の周りに集まっています。特に江戸時代の絵になると小さな虫や鳥、海から魚たちと一緒に鯨も来て泣いています。

伊藤若冲(じゃくちゅう)は熱心な仏教徒で、「動植綵絵(昨年国宝指定)」の絵に多くの鳥も描いています。

1797(寛政9)年、鋏形蕙斎(けいさい)が、「鳥獸略画式」を表わして大評判になったそうで、今も国の内外から高い評価を受けています。



その中から鳥の絵を抜粋。今見ても斬新ですね。

やさしい昆虫講座—47

昆虫界の色白美人(コナジラミ)

木村 裕

体全体が真っ白な昆虫をご存じですか？
本当にそんな虫がいるのかと思われるかも。カ
ミキリムシの幼虫(テッポウムシ)も白っぽい
ですが、もっと真っ白で小さな虫です。

それはコナジラミという虫で、葉の裏に群が
って寄生し、葉が揺れ動くときパッと四方に飛び
散ります。英語名ではホワイトフライといい、
長さが3ミリに満たないハエのような虫です。



葉に口ばしを差し込んで汁を吸い、糖分を含
んだ粘った液体を排泄しますが、これが葉に付
着すると葉の表面はベタベタになります。この
附着物を餌としてすす病菌が繁殖するため葉や
茎や枝、ときには果実までうす黒く汚れます。
すす病菌そのものは何も害はしませんが、光合
成の妨げになっています。



代表的なものを取りあげると、まずはツツジ
コナジラミで、葉が込み合ったツツジでよく発

生します。

クチナシやミカンではミカンコナジラミが
よく発生します。

野菜(トマト、キュウリ、ピーマン、ナス)
ではオンシツコナジラミやワタコナジラミがよ
く発生し、ハウス栽培農家を悩ませていますが、
皆さん方の家庭菜園では問題はありません。

ツバキではツバキコナジラミがときどき発
生します。成虫の体色は灰色で、幼虫の体色は
真っ黒で光沢があります。



このようにいろいろな植物につきますが、自
分の餌となる食物はきちんと決めており、例え
ばツツジコナジラミは隣に美味しそうなたまご
があっても見向きもしませんのでご安心を。

幼虫は成虫からは想像できない姿をしてい
ます。長さ1~2ミリの楕円形で、紙のように
薄く扁平です。おまけに半透明~淡緑色です
ので、たくさんいるにもかかわらず見つけるのは
困難でしょう。卵からふ化した幼虫は歩き回
りますが、汁を吸い始めると動かなくなります。
カイガラムシによく似た生活をおくりますが、
成虫になるとオスもメスもハエのような虫と
なって飛び回ります。蛹は幼虫と同じ姿をして
いて区別はつきません。



新ならやま投句箱

俳句

極樂の余り風にてふたやすみ

中井 弘

秋晴れに七機の編隊へリコプター

坂東 久平

田の畦を今年も飾る曼珠沙華

鈴木 末一

芋のツル珍味と喜ぶ現代人

富江 文雄

名月に夜鳴く虫も声潜む

八木 順一

秋めくやタグ付き服の出番なし

青木 幸子

すりよりしふわ猫の手温かく

小島 武雄

四月经ち今日はあの子ら稲刈りに

藤原 勲

花野行く仔犬のふぐりもこもこと

古川 祐司

彼岸花永劫回帰や墓の道

羽尻 嵩

風つかみ輝く翼鷹渡る

高間 祥子

子等の声刈田の後のあおあおと

豊田 浩代



新ならやま投句箱への投句ありがとうございます。今後ともよろしくお願い致します。

栗のイガ鹿も手が出ず豊作だ 柴田 秀男

薄墨の雲の切れ間や月今宵 山本 美智子

児等きらら朝の稜線秋きらら 阿部 和生

短歌

運動会転んでくやしいゴール前 千載 輝重

めげずに駆けだす真顔にエール 戸田 博子

ピーナッツ、スクナにエビスかぼちゃだよ

ならやまに来て知った楽しさ 谷川 雅邦

木枯らしに落ち葉踊りてひらひらと

侘しき思い時雨れの里に

川柳

虎負けた五割も無いゆえ武士らしく 虎キチ

コロナ減り次はインフルマスク顔 ぜんさん

行事案内

自然教室のご案内



月例研修会のご案内

春日奥山石仏巡りと紅葉をめぐる

秋の奈良公園・紅葉狩り

福田 美伸

富江 文雄

季節が進み、朝晩めっきり冷え込んできました。令和4年の最後となる自然観察会を奈良公園で行います。

例年ですと、辻本さんの楽しい解説が聞けるのですが、現在病氣療養中で今回はありません。ただ、紅葉の美しい公園の散策でどのような自然との出会いがあるか期待しましょう。

観察時間は午前中のみとします。

コロナ対策として、密集を避けて必要に応じてマスクを着用しましょう。

記

日時：11月22日(火) 午前9時～12時

集合場所：近鉄奈良駅、行基菩薩像前

持ち物：飲み物、防寒具

雨天時の実施有無は、会の申し合わせ通り
前日午後7時前の天気予報で奈良県北部地方の降水確率60%以上で中止とします。

(順延はありません)

担当：山本美智子

富江文雄



奈良公園の鹿と紅葉

柳生街道春日奥山には沢山の石仏群があります。そして芳山交番所から南ゲートまで下り坂になり沢山の紅葉があります。幹事の富井、小島、福田の3人が長年奈良に住んでいる方も行ったことのない、素晴らしい場所を自信を持って案内させていただきます。

みなさんの参加をお待ちしています。

記

日時：令和4年12月6日(火)

雨天実施(警報が出ない限り)

集合：近鉄奈良駅「行基前」9時30分

持ち物：ハイキングシューズ、ストック、雨具、シート、弁当、お茶

コース：全行程約9km

近鉄奈良駅よりバス 破石町下車→春日奥山南ゲート→滝坂の道→夕日観音→朝日観音→首切り地蔵→新池にて昼食→地獄谷石仏→芳山交番所→下りは歩きやすい春日遊歩道→紅葉の道を南ゲートまで歩きます→破石町バス停→近鉄奈良駅15時着予定。

申込先：富井忠雄

担当：福田、小島、富井



春日山原始林の紅葉



きのこだよ

クチベニタケ(口紅茸)

高間 祥子

11月の「きのこ」といえば何だろう? 「松茸」はまだ発生していないし、イグチやテングタケの季節は終わっているし…さて、「きのこだよ」に何を書こうかなと思いつきながら、ならやま観察路を歩いていたところ、見つけました。クチベニタケ! 大好きなきのこです。何より可愛い。小さくまん丸で、頭頂部の星のような形をした部分が真っ赤っ赤。まるで口紅をひいたようです。アニメに出てくるネズミのおっばいにも見えてきます。

竹藪の辻へ上る途中の竹林の斜面で見つけました。ドングリのカクトか鹿の糞かと間違えるような薄茶色の球形でいくつもかたまって出ていました。夏から秋にかけて、シイ・カシなどが茂った林の道沿い土の崖などに発生することが多いです。この文章がお目に留まる頃まで見られれば良いのですが…

この原稿を書くためにクチベニタケを調べてみて驚きました。日本では普通に見られるきのこですが、世界的には珍しく、日本以外の菌類研究者に標本を差し上げたら、大喜びされるとか……。可愛いだけでなく、そんな貴重なきのこだったのです。クチベニタケの学名は Calostoma 「美しい口、可憐な唇」 Japonicum 「日本の」となるそうです。

とにかく、1cm位の小さいきのこだし、食べようという気はあまりおきないと思いますが、食不適、ということですので。念のため。



奈良学クイズ

約25年ほど前、県立橿原考古学研究所の2年間にわたる発掘調査により、神獸鏡が副葬当時に近い状態で発見された古墳について、次の各問にお答えください。



《問1》この古墳の名称をお答えください。

《問2》次の写真の鏡が出土しました。



(A)

(B)

① Aの名称をお答えください。

② Bの名称をお答えください。

《問3》発掘されたAとBの神獸鏡の数をお答えください。

① A ()面

② B ()面

《問4》この古墳の形状をお答えください。

()墳

【応募要領】

締切日 : 11月2日(水)

記念品 : 自然木○○○作品?

応募方法 : Mail

2022年10月度幹事会報告

I. 総務部より

- ・会員動向：1名減の152名

II. 活動・行事関係

- ・12月幹事会は12/27(火)はぐくみセンター14:00~とする

- ・迎春準備は12月29日(木)午前中

*ならやまプロジェクト関係

- ・10/6 平城宮跡の草刈り 県から受託
- ・10/13 奥まった観察路の草刈り
- ・10/16 朝日親と子の自然環境教室 70名
- ・10/29 芋掘りイベント 子ども30人
- ・トイレの竹柵を撤去してキンモクセイを植樹
- ・10月より味噌汁の提供開始
- ・地元の絵画教室への協力について県から打診があり検討する
- ・カブトムシ飼育：イベントでの提供を視野に会として取り組む。10月に幼虫採取。今年は木村さん、川勝さんの指導を得ながら本部+賄い当番で担当する。

III. 企画、助成金事業案件

- ・林野庁：竹林整備作業、11月~2月で実施。
- ・その他各助成金事業は順調に進捗中
- ・来年度第33回コメリ緑資金助成申請検討中

IV 喫緊、提案事項

- ・佐保川小4年生学習支援活動：10月と1月に校庭にて自然教室(9/29打合せ)

V 広報関係

- ・ネイチャーなら11月号編集内容説明
- ・ネイチャーなら印刷不要の連絡は現在までのところ21名

VI 報告・連絡事項、その他

- ・月例研修会：11/1 みたらい溪谷バス利用
- ・自然教室：10/17 馬見丘陵自然観察会

次回定例幹事会 10月25日(火)14:00~
奈良市中部公民館にて



慢性的に肩、首が痛い。これを肩がこるといふのだろうか。肩に手を当てて揉んでいると、なぜか親父とお袋を思い出す。いつも肩をトントン叩いていたなあ。そんな歳になったのか。

孫が来た。娘に肩こりの話をすると一言。「無駄な動きをしないから。孫を見てみ。何をしたいのかわからないし、無駄な動きばかり。これだと肩はこらない」と言う。孫を見ながら「そうか」。そういえばよそ見をしなくなった。思い立っても行動に移すのが遅くなった。それで体を動かさない。慣れた動作しかしない。これが肩こりの原因だと。

コロナとお付き合いをしながら、人の動きが賑やかになってきた。これに乗じて「無駄な動き」をやってみようか。「興味を持ったらやってみろ」と孫に言われているのかな。

暑い夏も過ぎて秋の気配。ならやまも良い季節になったし、「何でもやってみよう」。慢性の肩こりがよくなるかも。

12月ならやま活動&行事予告

- * ならやま活動(木)1日 協働活動日
8日 芋煮会(予備15日)
- * 12/6 月例研修会 春日奥山ハイキング

会員動向(敬称略)	
<退会者>	10/01 内海 緑
	10/01 小橋 行雄
	10/01 塩井 皓太

発行：奈良・人と自然の会
URL：http://www.naranature.com
編集代表 Mail: editor@naranature.com
編集委員：青木(幸)・青木(芳)・尾崎千載・田中(善)・戸田・豊田

表紙写真：コスモスが満開のサイクリング道路沿いの花壇を花班が整備しています。